

22ヵ月ぶりに
再開

東京・日本橋―京都・三条大橋

創刊15周年記念連載

東海道五十三次を往く

第31回

1600（慶長5）年に徳川家康の命により整備された五街道のひとつ、東海道。翌年、日本橋から京都三条大橋まで、五十三の宿場が設けられ、そこで旅人や物資を送り継（次）ぐことになった。ミスモ編集部では、2016（平成28）年に創刊15周年を記念して、旅人が歩んだ「東海道五十三次」を京都までめぐる一大プロジェクトをスタートさせた。



二十七曲りの東入口にある冠木門（かぶきもん）。



岡崎宿

おかざきじゆく

徳川家康生誕の城下町
徳川家康の生誕の地として知られている岡崎。今や愛知県の中核都市として発展し、昔の面影はほとんど見られないが、岡崎城の城下町、そして、東海道の宿場町として栄えた歴史のある町には見どころが多い。特に岡崎城の防御を目的として作られた「二十七曲り」は、若宮町の冠木門のあたりから始まり、ジグザグに曲りくねった道が岡崎城の三方を取り囲むように続いている。街道歩きには難関に思えるが、曲り角のほとんどに案内柱があるので、迷わず分かりやすい。町の西側を流れる矢作川を渡る矢作橋は広重の絵に描かれた橋で当時は東海道で最長の橋であった。

岡崎城址

15世紀前半頃に築城され、1542（天文11）年に徳川家康が城内で誕生した。現在の天守閣は1959（昭和34）年に復元されたもの。



岡崎信用金庫資料館 （旧岡崎銀行本店）

1917（大正6）年に旧岡崎銀行本店として建造された本格的洋風建築で、国の登録有形文化財として登録されている。



新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、取材および連載の休止が余儀なくされていましたが、22ヵ月ぶりに取材を再開することができ、ふたたび誌面に登場することになりました。さあ、京都・三条大橋を目指して、いざ参りましょう！

曲り角には
金のわらじを
あしらった案内板が





岡崎 やはぎのはし 矢矧之橋 (矢作橋)

歌川広重が描いた絵とほぼ同じ位置に岡崎城の天守閣が見えるが、高い建物に囲まれて探すのが難しい。



左に続く道が
旧東海道



カクキュー八丁味噌の本社屋は
愛知県初の国の登録有形文化財



食



味噌煮込うどん

八丁味噌の老舗、カクキューの食事処で食べられる本場の八丁味噌を使った味噌煮込うどん。香り豊かでコクのあるだしがやみつきになる。

食事処休右衛門

愛知県岡崎市八帖町字往還通 69 カクキュー八丁味噌内
☎ 0564-21-1355
🕒 11時～15時 (L.O.14時30分) ㊿無休 (年始休)



カクキュー八丁味噌(八丁味噌の郷)

1645(正保2)年創業のカクキュー。「八丁味噌」の由縁は八丁村(現・岡崎市八帖町)で造られることから。食事処「休右衛門」では八丁味噌を使った味噌煮込みうどんが食べられる。

カクキューの裏手には
風情ある味噌蔵が並ぶ



おみやげ

あわ雪

かつて東海道名物として旅人に人気だった「あわ雪豆腐」を備前屋の三代目が、卵白を泡立て、寒天、精糖を混ぜて固めた棹物菓子として創製した。淡雪のようにやさしくまろやかな味わい。

備前屋本店

愛知県岡崎市伝馬通 2-17
☎ 0564-22-0234
🕒 9時～19時 ㊿無休

